1 号議案参考関連資料

日本遺産を通じた地域活性化計画（案）

認定番号	日本遺産のタイトル
088	霊気満山高尾山　～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～

（1）将来像（ビジョン）

【将来像】

歴史文化を核に、地域経済と文化継承が両立する「持続可能なまち」
～「桑都物語」を軸とした新しい価値創造と地域イノベーション～

人口減少と価値観の多様化が進む中で、地域が持続的に発展するためには、従来型の観光振興や産業政策の枠を越え、地域の文化や産業に触れる多様な「入口」を整え、人々が地域と関わる機会を育むことが重要である。本市のアイデンティティを示す日本遺産ストーリー「桑都物語」を基盤として、担い手の想い、技術、健康、環境など、さまざまな共感ポイントと結びつけることで、地域への新たな接点を生み出すことができる。

協議会は、本市の歴史文化をはじめとする地域資源やブランドなど、地域全体で活用できる基盤を整備し、民間はその基盤を活かして新たな価値や新たな製品・サービス・体験を創出する。この循環が地域に安定した収益をもたらし、持続的な発展を支える。

本計画を通じて、地域の文化と産業を未来へつなぎ、持続可能な地域を目指す。

【背景】

人口規模 56 万人超である本市においても、地域住民や事業者のニーズ、価値観の多様化が進んでおり、市全体に通じる「桑都物語」や歴史文化に関する理解及び定着が容易ではない状況となっている。一方で、本市は人口規模や多様性、東京都心からのアクセス性といった明確な強みを有しており、市場としても高い潜在力を有する。

こうした強みを活かし、市内外・海外の方を対象として文化観光をはじめとする地域経済の活性化を図ることは、高い実現性と持続性を備えており、地域の将来像を支える「持続可能なまちづくり」の推進に大きく寄与するものと考える。

【計画の考え方】

こうした活性化を具体的に実現していくためには、来訪及び周遊者数の増加とその場での消費額の拡大によって地域内に経済循環を生み出すことが不可欠である。来訪者数及び周遊者数の増加については、市として推進している観光 MICE のほか、令和 8 年 10 月にオープンする、公園・ライブラリ・「歴史・郷土ミュージアム」・交流スペースが一体となった「桑都の杜」による来訪者の増加が見込まれる。そして、これらの来訪者を周遊につなげていくため、「桑都物語」や歴史文化に関するコンテンツの磨き上げを進めるとともに、アニメコンテンツやヘルスケア、環境といった異分野を入口としつつ、歴史文化への理解を深めるコンテンツを拡充する、さらに「桑都の杜」と中心市街地をつなぐ周遊ルート整

備などの導線に係る情報を提供していくことによって、新たな関心層も含めた来訪及び周遊者数の拡大につなげる。

また、消費額の増加に向けては、「コト消費」や没入体験に加え、価値観や感情に紐づく「イミ消費」といった潮流を踏まえ、観光 MICE によるメニューの充実のほか、高品質な伝統産業や「桑都」の由来でありかつ血糖値抑制効果があるといわれる桑といった「本市ならではの地域資源」を活用する。これらに新たな付加価値を付与した商品・サービスの創出や周遊・体験ツアーを開発することで、地域における消費の拡大を図る。

さらに、「地域の活性化」に資するこれらの取組と、「桑都物語」を普及・啓発することで市民や市内事業者の「郷土愛」を醸成する取組、来訪・周遊・交流・消費につながるイベントや体験プログラム等を通じて「関係人口の増加」を図る取組を連動させることで、市内はもとより市外や海外の多様な人々の「桑都物語」への深い理解・共感を得るとともに、将来にわたり日本遺産を支える「桑都物語ファン」の拡大を目指す。

また、「桑都物語」の各事業に関わる人材の育成・輩出に向けて、産官学が連携した人材育成システム構築に着手し、日本遺産推進事業に主体的に取り組む地域人材を継続的に育成することによって、経済、人材の両面から「持続可能なまち」の実現につなげる。

【目指す姿】

これらの取組を進めるにあたっては、地域住民、民間事業者、来訪者それぞれが、「桑都物語」について理解を深め、来訪・周遊などの行動変容を起こし、さらには産業活動への昇華につなげることが重要である。このため、本市では 3 者それぞれの将来の姿を以下の通り設定し、その実現に向けて取組を推進していく。

関係者	地域住民	来訪者	民間事業者
目指す将来の姿	◆「桑都物語」の理解や歴史背景、担い手の思いへの共感をもとに、ファンとして継続的にイベント参加や商品購入を行い、歴史文化を支える ◆「桑都物語」や文化財、歴史文化を認識し、深く理解する ◆ガイドボランティアや「桑都物語」関連プロジェクトに参画する ◆SNSや動画で魅力を国内外に発信する ◆海外来訪者との交流で国際感覚を育む ◆学んだ物語を生涯のアイデンティティとして継承 ◆「桑都物語」に関連する伝統文化や伝統産業、観光業をキャリア選択肢として認識する	◆「桑都物語」に関連するイベント参加や商品購入等を通じ、そのストーリーや歴史背景、担い手の思いへの共感をもとに、継続的なファンとなる ◆「桑都物語」や文化財を理解し体験で魅力を感じる ◆デジタルや現地案内で歴史文化を学び共感を深める ◆多言語情報を活用し国際交流を楽しむ ◆SNSや動画で魅力を発信し情報拡散に協力する ◆関係人口として継続的に地域と関わる	◆「桑・織物」を含む「桑都物語」や文化財を活用した新事業で収益モデルを確立している ◆「桑都物語」や文化財を理解し事業に活用する ◆民間事業者コミュニティでの共創により新商品・サービスを創出する ◆海外展開や販路拡大で「桑都物語」や地域の魅力を発信する ◆海外展開人材を育成・活用し、企業活動と「桑都物語」PRを両立する ◆文化観光・産業観光の担い手として地域資源を活用した事業化の役割を担う

【地域の長期的構想（総合計画等）への位置づけ】

日本遺産の活用は、本市の最上位計画である「八王子未来デザイン 2040」における重点テーマ「未来へのつながりづくり」に明確に位置づけられているほか、分野横断的な推進を図ることとしている。これを契機として桑都文化の昇華と地域活動、地域産業・経済の活性化を図るとともに、豊富な歴史文化資源を活用した地域主体の観光まちづくりを推進することとしている。さらに、「歴史文化基本構想」（令和 2 年 1 月策定）及び「文化財保存活用地域計画」（令和 4 年 7 月策定）に基づき、地域の活性化とシビックプライドの醸成を目的として、「歴史文化を生かしたまちづくり」を推進し、持続可能な文化財の保存・活用を図ることとしている。そのほか、第 2 期「文化芸術ビジョン」（現在策定中）におい

て、「桑都物語」をはじめとした文化的資源を活用し、本市の文化振興を進めることとしている。

（２）地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－Ａ：日本遺産ストーリー関連施設への来訪者数（万人）

年度	実績			目標		
	2023	2024	2025	2026	2027	2028
数値	43.7	70.2	72.3 ※推計値	74.1	76.4	78.5

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	「桑都物語」の周知に関する取組の継続に加え、周遊ルートの造成や日本遺産関連製品を通じた関心の高まりにより日本遺産関連施設の来訪者が増加する見込み。日本遺産関連施設である高尾 599 ミュージアム、八王子城跡ガイダンス施設、絹の道資料館、桑都テラスの利用者数実績値に加え、2026 年 10 月オープンの歴史・郷土ミュージアムの利用者数を見込み、2026 年は 5 万人の増加、それ以降 3%増加を目指す。 ［把握方法］各施設から情報取得 ［推計値算出根拠］前期計画で年 3%程度増加を見込んでいたため、2024 年比 3%増で見込む。

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－Ｂ：高尾山を訪れる外国人観光客数（万人）

年度	実績			目標		
	2023	2024	2025	2026	2027	2028
数値	5.8	10.6	13.1 ※推計値	15.1	17.1	19.1

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	インバウンド需要の増加を踏まえ、日本博 2.0 事業の成果によって増加した高尾山への外国人来訪者に対して情報発信することで関連施設への来訪・周遊を促進する。高尾山に設置している観光施設（高尾 599 ミュージアム、高尾山口観光案内所）の外国人利用者数から推計。本指標について 2024 年－2025 年の増加幅に基づき年あたり 2 万人増加すると見込む。 ［把握方法］各施設から情報取得

	［推計値算出根拠］令和7年度の日本博2.0事業において設定した目標値から引用。

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①－Ｃ：ポータルサイトのページビュー数（PV）						
年度	実績			目標		
	2023	2024	2025	2026	2027	2028
数値	56,000 推定値	57,000 ※推定値	58,000 ※推定値	60,000	63,000	66,150
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	「桑都物語」及びイベント情報や地図情報といった関連情報についてポータルサイトに集約し発信していくほか、SNS等を通じてポータルサイトへの誘導を図っていく。これにより、当サイトへのページビュー数について、毎年5%の増加を目指す。 ［把握方法］ポータルサイトプレビュー数をもとに把握					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－Ａ：日本遺産に関する市民認知度（%）						
年度	実績			目標		
	2023	2024	2025	2026	2027	2028
数値	53.4	51.3	66.4	68.0	70.0	70.0
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産推進に資する取組を通じて、「桑都物語」の認知度を高める。本市が毎年実施する市政世論調査での日本遺産の認知度にて「認定されたことを知っている」の割合について 70%を目指す。 ［把握方法］毎年実施する市政世論調査で把握					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－Ｂ：地域の文化に誇りを感じる住民の割合（ポイント）						
年度	実績			目標		
	2023	2024	2025	2026	2027	2028
数値	46.0	48.7	47.3	50.0	50.0	50.0
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産推進の取組を通じて、「桑都物語」について理解するとともに、地域アイデンティティとして誇りに思う割合を高める。本市が毎年実施する市政世論調査において、誇りを感じると回答					

	した人の割合（推奨意欲スコア）について、50 ポイントを目指す。 ［把握方法］毎年実施する市政世論調査で把握

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－Ａ：日本遺産に関連する商品・サービスの売上高（万円）						
年度	実績			目標		
	2023	2024	2025	2026	2027	2028
数値	28	57	125 ※予測値	200	300	400
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	協議会独自ブランド製品のほか、民間事業者による「桑都物語」関連の製品・サービス開発や、高尾山から中心市街地等、複数エリアをつなぐ周遊ツアー造成によって製品群が充実され、売上が増加する見込み。協議会又は民間事業者が販売する「桑都物語」関連商品等の売上額について、年 100 万円増加を目指す。 ［把握方法］民間事業者コミュニティから情報取得					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－Ａ：日本遺産及び文化財の保存・活用に関する寄附額（万円）						
年度	実績			目標		
	2023	2024	2025	2026	2027	2028
数値	1,431	1,644	1,850 ※推計値	1,950	2,050	2,150
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産推進に係る取組を通じ、「桑都物語」や歴史文化及びその担い手等に共感した方からのふるさと納税寄附額の増加が期待できる。2025 年までの実績を考慮し、2026 年以降についても毎年 100 万円の増加を目指す。 ［把握方法］担当課から情報取得 ［推計値算出根拠］実績を考慮し、2024 年比で 200 万円増加すると見込む。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－Ａ：地域への観光客入込み数（万人）						
年度	実績			目標		
	2023	2024	2025	2026	2027	2028
数値	852.4	901.2	946.2 ※推計値	994	1,044	1,100

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	市内外及び海外への日本遺産推進に関する情報発信について民間事業者等との連携を通じて継続・充実させることにより、本市への観光客来訪者数が年5%増加すると見込む。 ［把握方法］行政機関が毎年公表する統計数値で把握 ［推計値算出根拠］2023年から2024年の増加率（5%）が毎年度継続されると見込む。

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること

指標⑤－Ｂ：日本遺産をテーマとした連携プロジェクト延べ件数（件）

年度	実績			目標		
	2023	2024	2025	2026	2027	2028
数値	―	3	4	5	7	10

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産が地域内の産業間若しくは産業と教育機関等をつなぐ触媒としてどの程度機能したかを検証するため、日本遺産をテーマとした連携プロジェクト数を指標とする。 ［把握方法］民間事業者や大学等へのヒアリングにより把握

（３）地域活性化のための取組の概要

１．地域文化への理解と誇りの向上

本計画においては、認定以降の取組の成果を踏まえ、日本遺産の市民認知度の向上や日本遺産等の地域の文化に誇りを感じる住民の割合をさらに高める取組、そして持続可能な地域経済の振興につながる取組を強化する。

前者については、「桑都物語」や歴史文化を様々な媒体や機会を通じて「知る」こと、歴史文化をテーマに継続的な来訪・周遊・交流・消費といった行動を通じて「関係を作る」ことにより、その実現を図る。

２．地域経済の活性化に向けた新たな価値創造

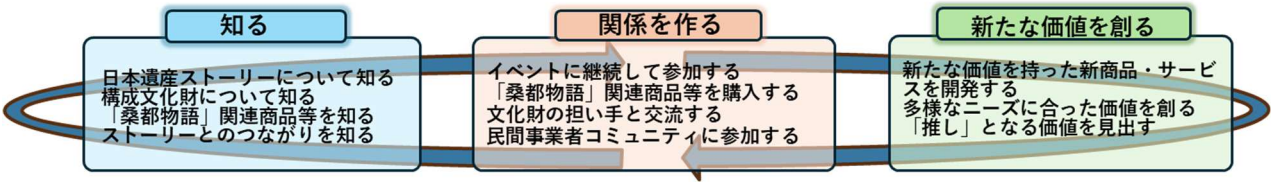
一方、後者については、製品そのものの魅力に加え、担い手の思いや歴史などの周辺情報を含めた価値や地域ブランドの形成を通じて、「新たな価値を創る」ことにより実現を図る。

３．「知る」「関係を作る」「新たな価値を創る」の連動による好循環モデル

さらに、「知る」「関係を作る」「新たな価値を創る」の3つを相互に連動させることで、市内外・海外の方々が日本遺産について深く理解・共感し、その共感をもとに地域とのつながりを深める。そして、その関係性を基盤として事業者が新たな価値を創造し、その新たな価値が市内外・海外に認知されていくという「好循環」を生み出し、継続的な成長を目指す。

この循環モデルにより、前項で掲げた地域住民、来訪者、民間事業者の将来の姿の実現

を図るとともに、「郷土愛の醸成」によるシビックプライドの向上、共感に基づくファンの拡大による「関係人口の増加」、地域イノベーション創出や市場開拓を通じた「地域の活性化」へとつなげる。



４．歴史文化の正しい理解促進と地域ブランド戦略の重要性

なお、循環モデルにおいては、「歴史文化の正しい理解促進」と「新たなファン層・購買層の開拓」の双方の視点を持つことが重要である。「歴史文化の正しい理解」は、主として市民や市内事業者の「郷土愛の醸成」や「関係人口の増加」に資する「基盤」となり、「新たなファン層・購買層の開拓」は「地域の活性化」、「関係人口の増加」を加速させることができる「成長エンジン」となる。この「基盤」と「成長エンジン」を組み合わせることで、継続的な安定と成長を実現する。

また、本市は全国で唯一「桑都」と呼ばれてきた歴史を有し、繊維産業が長きにわたり地域経済を支えてきたため、桑および繊維製品を取り上げた取組は日本遺産推進事業との親和性が高いと考えられることから、地域ブランド構築に向けたモデル事業として位置付け、地域経済の新たな価値創造につなげる。

＜本計画における今後の取組＞

１．　地域の活性化

地域の活性化に向けては、民間事業者が自らの事業のなかで「桑都物語」を活用し、その取組を地域全体に波及させ、経済の好循環を生み出していくことが鍵となる。一方で、日本遺産推進事業を地域経済へ確実に結びつけるためには、個々の製品・サービスの品質や魅力に加え、担い手の思いや歴史背景などの周辺情報も含めて価値化し、さらに地域ブランドとして昇華していくことで、市内外・海外の方々に「応援したい」「関わり続けたい」という共感を生み出すことが重要である。

さらに、教育機関との連携などを通じて、創造する側（サプライヤー）の関係づくりを強化し、深い理解と共感に基づく“創造体制”を構築する。これにより、創造する側と享受する側（カスタマー）の双方でつながりが広がり、関係が深化することで、深い共感に裏付けられた継続性が生まれ、地域経済の活性化へとつながっていく。

「知る」

～地域での経済活動を通じて日本遺産を知る、共感する～

課題	対策・取組
・　「桑都物語」に関連する商品の PR について、さらなる発信強化が求められる。	・　ストーリーに関連するエピソードを持った新商品・サービスについて、協議会と民間事業者が協力して PR を進め、市内外・海外の住民・事業者への認知向上を図る。

・ 「桑都物語」ブランドの確立と効果的な PR について、一層の取組が期待される。	・ ストーリーや歴史文化と紐づいた新商品・サービスを対象に、協議会主体で「桑都物語」地域ブランドを確立し、統一的な PR を展開することで、製品訴求力・信用度を高める。
・ 「桑都物語」を活用した新商品・サービス開発について、横展開を進めていく必要がある。	・ 新事業創出を目指す事業者に対し、新商品・サービスの展開事例を共有し、「桑都物語」を活用した高付加価値化の横展開を促進する。
・ 観光・文化・産業を横断した総合的な情報発信について、引き続き充実が求められる。	・ 各商品の「強み」「特徴」「ストーリー」について、協議会および協議会構成団体が多様な媒体から情報発信し、幅広い層に届ける。また協議会のポータルサイトやオンラインショップサイトからも積極的に情報発信し、PR を強化する。

「関係を作る」

～地域での経済活動を通じた共感をもとに、来訪・周遊・交流・消費の拡大につなげる～

課題	対策・取組
・ 若年層と事業者との接点づくり、および地域産業における共創機会の拡充が求められる。	・ 大学等のゼミやインターンシップの機会を活用し、大学生が事業者と共に商品開発や広報等の実務経験を行えるようにし、若年層との接点づくりを進める。
・ 「桑都物語」関連の新商品・サービスの販売促進に向けた取組を一層強化する必要がある。	・ 新商品等の販売促進に向け、民間事業者に加え、協議会オンラインショップや販売店との連携により来訪・購買機会を拡大する。また、ツアー等については協議会構成団体を中心に PR を進める。
・ 事業化・収益化モデルのさらなる拡大に向けた仕組みづくりが期待される。	・ 協議会が民間事業者の収益モデルに関する情報を収集し、「桑都物語」の活用方法とあわせて整理したうえで、市内事業者に成功事例として共有・横展開する。
・ 増加する外国人来訪者への対応を強化していくことが求められる。	・ 多言語での商品紹介やストーリーの PR、体験プログラムの提供を通じて、増加するインバウンド需要に対応する。
・ 新事業創出や異分野連携を促進するためには、民間事業者同士が継続的に交流し、学びあうコミュニティの場を整備していくことが求めら	・ 共創による新事業創出・展開を目的として、民間事業者主体のコミュニティを形成し、市内外事業者・創業者が参画し交流できる場を整える。相互に学びあいながらア

れる。	イデアを共有できる環境を作るとともに、マッチング機会を創出し、新商品・サービスの開発や販路拡大につなげる。

「新たな価値を創る」

～共感をもとにした経済活動を通じて、新たな市場の創出を図る～

課題	対策・取組
・ 伝統産業の高付加価値化および持続可能性の向上をさらに進めていくことが求められる。	・ 【地域イノベーション創出事業】 高品質の織物・染物製品を対象に、独自の品質基準に基づく認定制度を設け、「桑都物語」ブランドとして高付加価値化を図り、土産品等への展開を図る。 また、オープンファクトリーの機会を活用し、ストーリーの一端を担う職人の技術を間近で体感できる「産業観光」を推進し、市内外・海外の「伝統産業の技や担い手に関心を持つ」層を対象に商品造成を進める。
・ 桑を活用した食文化としての「桑都物語」ブランドの確立と価値づくりを強化していく必要がある。	・ 【地域イノベーション創出事業】 桑を活用した食品や、その効能に着目したヘルスケア商品を民間事業者が主体となって開発し、「桑都物語」ブランドとして価値付けを行い、健康維持に関心のある層を念頭とした新市場開拓を進める。 また地元食材供給につながるサプライチェーンの構築を進めるとともに、市内外・海外の「食文化に関心の高い層」を対象に、高単価なガストロノミー（食文化観光）を推進する。
・ 伝統芸能の振興における新たな価値づくりを進めることが期待される。	・ 【地域イノベーション創出事業】 八王子車人形などの伝統芸能と、市内製造業の高度な技術や先端デジタル技術を持つ事業者との共創を促し、「伝統×ものづくり・デジタル」といった新たな価値付けを行い、伝統分野の異分野展開の可能性を探る。
・ 他の認定地域との連携による新たな価値創出を引き続き推進する必要がある。	・ 徳島・山形・群馬との地域連携モデルを継続し、市内外・海外の「日本固有の伝統技術継承に関心のある層」を対象に価値づく

	りを進める。
・ 高尾山来訪者を中心市街地等へ周遊させる仕組みの強化が求められる。	・ 高尾山から中心市街地等への周遊を図るツアー造成により、広く・深く「桑都物語」を体験できる機会を創出する。市内外・海外来訪者に対し、「自然×歴史文化×食文化・自然」による新たな価値を提供する。
・ オンラインショップやふるさと納税返礼品など、デジタル販路を活用した販売促進をさらに進めていくことが必要である。	・ 協議会オンラインショップやふるさと納税返礼品の活用を通じ、各商品に「桑都物語」の価値を加えて付加価値を高め、市内外・海外の「地域の歴史文化に関心のある層」を対象に市場開拓を進める。

２．　関係人口の増加

関係人口の増加は、八王子の魅力を市内外・海外へ広く発信し、来訪・周遊・交流・消費を通じて、多様な人々と継続的なつながりを形成することで実現する。また、関係人口の対象を広げるため、日本遺産以外のテーマ（アニメコンテンツ、ヘルスケア、食など）を入口とし、そこから「桑都物語」の理解と共感へ誘導する「入口戦略」を展開する。

さらに、一時的な観光誘致にとどまらず、拠点施設や定期的なイベントを核とした交流、多言語対応を含むデジタル発信など、多様できめ細かな情報発信を組み合わせることで、「桑都物語」や歴史文化、担い手の思いへの共感を醸成する。その共感を基盤として、継続的な関係づくりを進め、「桑都物語」への愛着と関わりを深めるファン化へとつなげる。

「知る」

～市内外・海外の方が日本遺産について知り、共感する～

課題	対策・取組
・ 市内外・海外の多様なターゲット別の発信戦略を、より体系的に整理し発信していくことが求められる。	・ ポータルサイト・SNS 等のデジタル媒体を活用し、歴史文化や担い手が持つストーリーを、市内外・海外の多様なニーズに応じて発信する。また多言語対応や動画等を活用し、魅力が伝わる情報発信を強化する。
・ 閲覧者が興味に応じて関連情報へ段階的にアクセスできるよう、深堀りの導線設計を強化していくことが必要である。	・ 「桑都の杜」や歴史・郷土ミュージアム等の拠点施設において、来場者が「桑都物語」へ容易にアクセスできる展示・導線を整備する。 展示物を通じて地域の歴史文化と「桑都物語」のつながりを理解できる工夫を行う。
・ 構成文化財間の関連性を踏まえて、周遊や滞在を促すような情報編集	・ 複数の構成文化財を連動させた周遊ルートを造成し、デジタルマップ等を通じて

やルート設計の充実が求められる。	「コト消費」「イミ消費」に関心のある層に向けて、歴史文化や周辺店舗情報を一体的に発信する。これにより周遊行動や滞在時間の延伸につなげる。

「関係を作る」

～共感をもとに、市内外・海外からの来訪・周遊・交流・消費につなげる～

課題	対策・取組
・ 「桑都物語」に係る人材の関心喚起からキャリア形成まで、一貫した流れを作る仕組みの構築が不足している。	・ 【地域イノベーション事業】 教育機関・民間事業者との連携のもと、小中学生から社会人まで一貫した人材育成システム構築に向け、交流の場を設けつつ、実現可能性について研究する。
・ 市民及び市内事業者と、地域外人材および市外・海外来訪者との接点を拡充していくことが必要である。	・ 「桑都の杜」、歴史・郷土ミュージアムをはじめとする常設施設での展示・体験、年中行事・イベント、異分野テーマを入口とした企画など、継続につながる多様な参加機会・交流機会を提供し、接点を拡充する。
・ 年中行事やイベント、常設施設、MICE エクスカーションを相互に連動させ、継続的な関係につなげる仕組みの充実が求められる。	・ イベントや常設施設、MICE エクスカーションツアーの参加者に対し、関連する他の施設や体験機会の情報を提供し、さらなる来訪・周遊につなげる。
・ 多言語・多文化の来訪者を受け入れる体制のさらなる充実が求められる。	・ 多言語スキルを持つ市民が活躍できるよう、「桑都物語」を多言語でガイドできる人材を育成する。あわせて民間事業者との連携により、育成メニューや雇用機会の創出について研究する。
・ 中高生と多言語対応ガイド人材との交流機会を拡充し、次世代の地域人材育成につなげることが必要である。	・ 中高生ガイドボランティア育成事業の受講者と多言語対応ガイド人材の交流を図ることで、中高生が「地元を拠点としたキャリア像」を描ける環境を整える。

「新たな価値を創る」

～市内外・海外からの来訪やファン化につながる価値を創出する～

課題	対策・取組
・ 新たな来訪・周遊・消費につながる価値を創出するため、「入口戦略」を具体的に企画・実践していくことが求められる。	・ 【地域イノベーション事業】 本市を舞台としたアニメを活用した「聖地巡礼」ツアーや、健康づくりを目的としたイベントなど、異分野からの来訪を促す

	体験イベントを入口として位置付け、参加者が「桑都物語」や構成文化財に触れる機会を創出する。
・ 桑の生産者、加工業者、流通・販売者間のネットワークを形成し、事業成長につながる仕組みの構築が必要である。	・ 【地域イノベーション事業】 市内及び他の認定地域による「桑関連サプライチェーン」構築について調査・検討するとともに、ヘルスケア分野等への新分野展開を図り、健康に関心のある層に訴求できる価値を創出する。
・ 芸能・食・産業など、異分野を横断した交流を促進し、新たな付加価値を創出する環境づくりが十分でない。	・ 【地域イノベーション事業】 「芸能×テクノロジー（新技術とのコレボレーション）」、「食文化×観光産業（ガストロノミー）」など、異分野連携による新たな付加価値創出に向けた関係づくりを進める。

３． 郷土愛の醸成

郷土愛の醸成は、市民や市内事業者が地域の歴史や文化を深く理解し、誇りを持つことから始まる。単なる知識習得にとどまらず、学校教育や地域イベント、事業者との協働を通じて体験的な学びを広げるとともに、多様な切り口や新たな価値創出を通じて、共感や地域への誇りを育む。これらを通じて、市民が主体となり持続可能な活動を支える地元ファン層の拡大・定着を図る。

「知る」

～本市のルーツとして市民・市内事業者が日本遺産を知り、共感する～

課題	対策・取組
・ 日本遺産の認知度は向上している一方で、地域差・年代差が見られ、若者層への対応が必要である。また、義務教育層への浸透・定着は継続して進めていくことが求められる。	・ 地域イベントでの日本遺産 PR、アニメコンテンツ等との連携による若年層向けPR、大学生のゼミやインターンシップ等による参加型プログラムにより、地域や年代に応じた認知度向上を図る。また、小・中学校の郷土学習や学校給食等の学校教育を通じた「桑都物語」の理解・定着を引き続き進める。
・ 小・中学校への出前授業や体験機会に加え、継続的な学びを支える教材や仕組みづくりを強化していく必要がある。	・ 小・中学生を対象に、出前授業・体験コンテンツの提供に加え、構成文化財の担い手に焦点を当てた短編動画や「桑都物語」検定（仮称）を活用し、担い手の思いやストーリーへの理解を深める。また、「上の祭

	り・下の祭り」等の年中行事での体験と組み合わせることで、理解の深化・定着及び地域への思いの醸成につなげる。
・ 多様なニーズに対応したターゲット別の戦略的な情報発信が求められる。	・ ポータルサイト・SNS・パンフレット・音声ガイドアプリ、デジタルマップ等を組み合わせ、多様なニーズに対応できる市民向け情報発信を行う。
・ 「桑都物語」の魅力を知るための入口を多様化し、共感の裾野を広げる仕組みが必要である。	・ 本市を取り上げたアニメや「桑都」にちなんだ食文化をはじめとする現代のトピックを入口とし、広報誌等の媒体を活用して市民への PR・普及啓発を展開する。
・ 製造業、情報通信業など、本市地域産業の特性に対する市民の理解・認知度を高めていくことが求められる。	・ 「伝統×ものづくり」の本市の産業特性を生かした新たな取組を推進し、歴史文化やものづくり技術、製造業に対する市民の認知度を高め、「桑都物語」への入口を拡充する。

「関係を作る」

～深く知ることによって共感を生み、地元ファンの拡大につなげる～

課題	対策・取組
・ 「桑都の杜」や歴史・郷土ミュージアム等の施設を活用した市民の継続的な学習機会や体験機会を体系的に整備し、地域文化への深い理解につなげていくことが求められる。	・ 「桑都の杜」、歴史・郷土ミュージアムをはじめ、行政や民間事業者が整備した施設等において講座・ワークショップ・体験プログラムを整備し、市民が歴史文化を継続的に学び、体験できる機会を提供する。
・ 継続的な学習の体験機会を創出し、地域文化への深い理解につなげていくことが必要である。	・ 文化財所有者や芸能の担い手との連携を強化し、体験学習等の機会を継続して提供する。これにより、担い手が継承してきた背景や意義への理解・共感を深め、継続的なつながりの形成につなげる。
・ 中高生向け外国語ガイドボランティア育成事業等を通じ、キャリア形成の視点を強化していく必要がある。	・ 中高生向け外国語ガイドボランティア育成事業を継続・拡充し、中高生とガイド人材や構成文化財関係者との交流機会を増やすことで、歴史文化への深い理解と担い手との継続的な関わりを育む。
・ 大学との連携を通じ、企画・事業化を牽引できる実務的な人材を育成し、その経験を地域で活かす仕組みづくりが求められる。	・ 大学のゼミやインターンシップを通じ、商品開発・広報・ツアー造成などの実務経験の機会を提供し、学生の当事者意識や地元への愛着の醸成を図る。

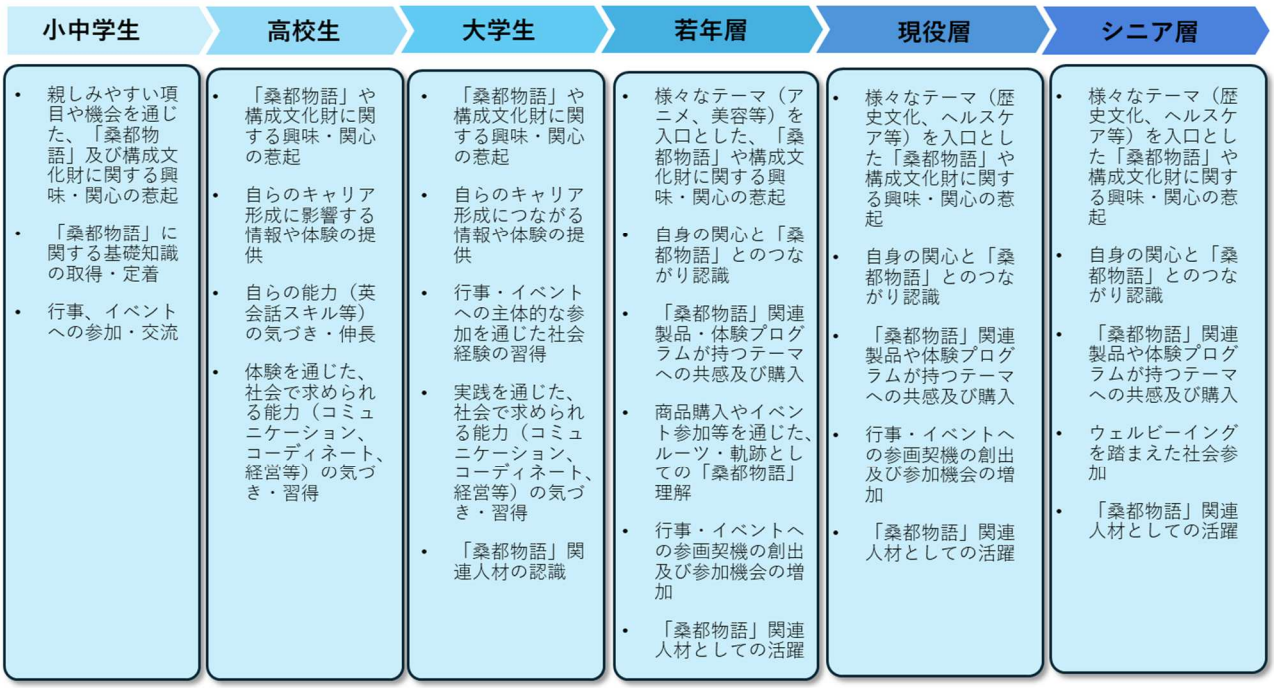
・ 伝統芸能・産業とその他の産業との接点・交流を増やし、新たな関わりや理解の深化につなげることが必要である。	・ 共同開発等を通じ、伝統芸能・産業と市内中小企業の交流を促進することで、伝統芸能・伝統産業が受け継がれてきた背景への理解を深め、地域への思いを高める。

「新たな価値を創る」

～地元ファンの拡大につながる新たな価値を創出する～

課題	対策・取組
・ 担い手確保や、事業継承が課題となっている織物・染物産業に対し、新たな価値付けを行い、市民の理解と関心を高めていくことが必要である。 ・ 「桑都」の由来の一端を担う桑について、その歴史的背景や食文化としての価値に関する市民の理解をさらに促進していくことが必要である。	・ 織物・染物産業の歴史背景やストーリーと連動させた商品造成や、「桑都物語」ブランド化を進めることで、商品・製造者・産業分野全体への理解と共感を深め、地元ファンの拡大につなげる。 ・ 「桑」を活用した食文化体験の機会を創出し、本市が「桑都」と呼ばれてきた意味や背景への理解と共感を高めることで、地域文化への愛着の醸成につなげる。

上記の取組の実施においては、世代別のねらい（下図は参考）等のターゲット設定を行い、事業効果が高まるよう取り組む。

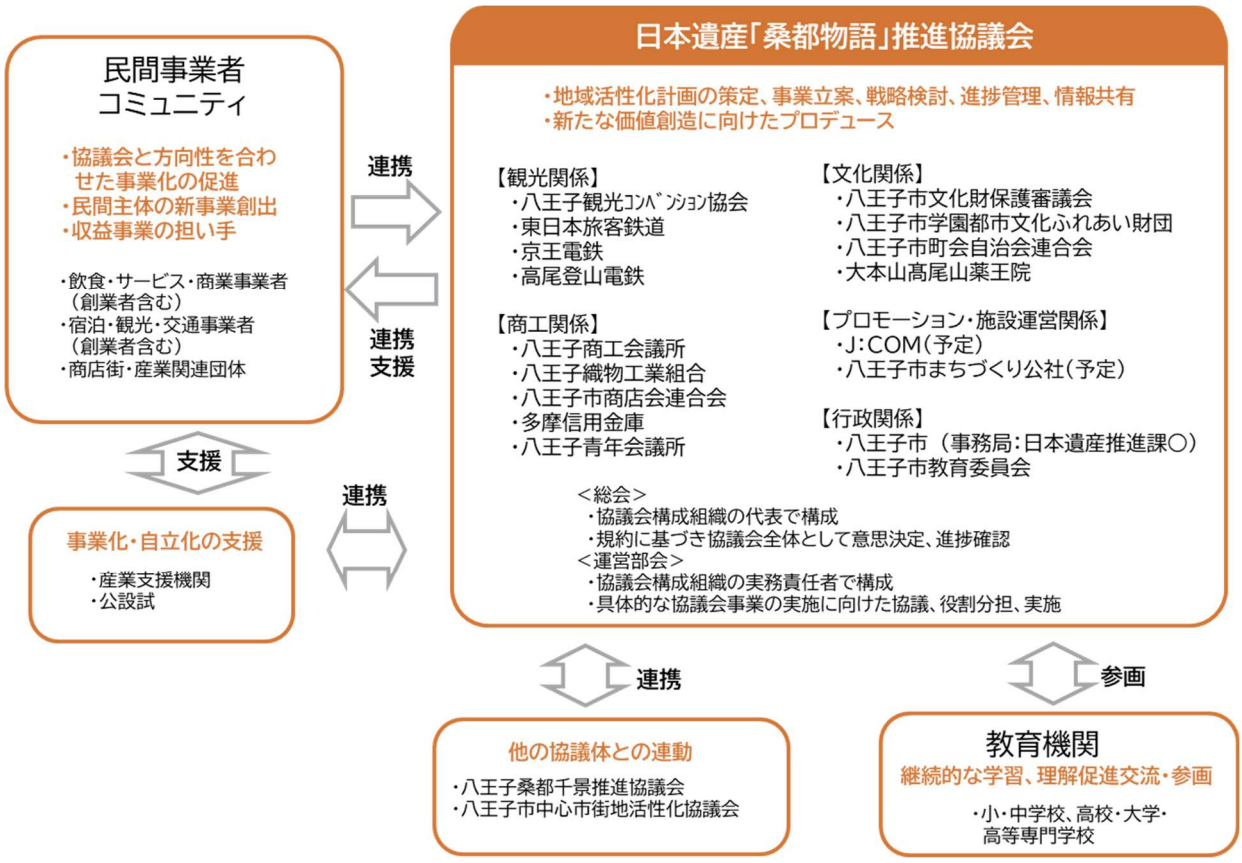


（４）実施体制

事業推進にあたっては、引き続き日本遺産「桑都物語」推進協議会が主体となる。

複数分野に渡る横断的取組による付加価値の創出を図るため、協議会内にプロデューサー機能を有する運営部会を新たに設置する。

また、多種多様な民間事業者の共創による新事業創出を図るため、民間事業者コミュニティを形成するとともに、産業支援機関等による専門的支援を活用する。



運営部会名	構成団体		役割分担
	構成委員	行政	
総括･広報･普及啓発部会	八王子商工会議所 八王子観光コンベンション協会 J:COM(予定)	八王子市 日本遺産推進課 観光課 八王子市教育委員会 文化財課	プロデュース機能 部会間の調整 イベント連携による普及啓発 デジタル広報戦略
文化財･教育･人材育成部会	八王子観光コンベンション協会 八王子市学園都市文化ふれあい財団 八王子市文化財保護審議会 八王子市町会自治会連合会 大本山高尾山薬王院 八王子青年会議所	八王子市 日本遺産推進課 学園都市文化課 八王子市教育委員会 教育指導課 文化財課	文化財の調査･研究及び活用可能性検討 教育機関との連絡調整 ガイド人材の育成･活動支援 人材育成システムの研究
観光･物産部会	八王子商工会議所 八王子観光コンベンション協会 八王子織物工業組合 京王電鉄 東日本旅客鉄道 大本山高尾山薬王院 高尾登山鉄道 多摩信用金庫 八王子市まちづくり公社(予定) 八王子青年会議所	八王子市 日本遺産推進課 産業振興推進課 観光課 学園都市文化課 八王子市教育委員会 文化財課	新商品･製品開発･PR支援 産学連携促進･支援 文化観光･産業観光･食文化観光研究

※リーダーは各部会で決定する。

［人材育成・確保の方針］

本計画期間を「「桑都物語」人材育成システム」の研究・構築期間と位置づける。小・中学校での郷土学習や中高生ボランティア育成事業といった既存事業を基盤にしつつ、大学生を対象とした「桑都物語」関連商品の開発に携わるゼミ活動やインターンシップといった機会を創出し、持続可能な人材育成・確保の仕組みづくりを目指す。これにより、将来にわたって途切れることなく地域文化の担い手を育成する基盤を整える。

１．小・中学生：郷土愛の基盤形成

学校教育課程に基づく郷土学習を継続・体系化し、出前授業や体験型学習を提供。「桑都物語」に関するコンテンツの活用で理解を深め、地域文化への誇りを育む。

２．中学・高校生：キャリア意識形成と交流

中高生向け外国語ガイドボランティア事業を継続・拡充し、ガイド人材や日本文化に関心のある市内留学生、担い手との交流機会を拡充。地域活動や国際交流を通じて、将来のキャリア形成に結びつける。

また、探求学習等を通じて、商品開発・広報・ツアー造成などの実務を体験する機会を提供。

３．大学生・若手：実践参画とスキル獲得

高校・大学での探求・ゼミ・インターンシップを通じて、商品開発・広報・ツアー造成などの実務を関わる機会を提供。

４．多言語対応人材：国際交流基盤の強化

インバウンド需要に対応するため、語学スキルを活かした「桑都物語」多言語対応ガイド人材を育成。ガイド講座・認定制度を整備するほか、教育機関・民間事業者と連携して当該人材が継続して活動できる場を確保。

５．海外展開人材：継続した活動環境の提供

海外展開に取り組む中小企業（特に製造業）と多言語対応人材のマッチングを図り、国際市場で活躍できる多言語対応人材として、安定して活動できる労働環境づくりを進める。

６．プロデューサー人材：事業化・自立化を牽引

産学・産産連携等により新たな価値付けを行った事業を創出し、事業化及び地域ブランドの形成を推進する。

（５）日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

本計画では、日本遺産「桑都物語」を活用した地域活性化を持続的に推進するため、協議会の機能強化と民間事業者の主体的参画を通じて地域全体で事業化・収益化を図る。

協議会は単なる調整機能にとどまらず、企画・広報・事業化を牽引するプロデュース機能を持つ部会を設置する。この機能を活用し、官民連携による新たな価値創出を促進することで、地域ブランド構築につながる事業モデルを創出し、組織の自立・自走を実現する。

１．自主財源の確保

協議会は、プロデュース機能を有する部会を中心として、協議会自身の収益モデルの立案・構築を進め、持続可能な財源確保を図る。

オリジナル製品の開発・販売やオンラインショップでの販路拡大を継続するとともに、認定制度、独自品質基準により、信頼性を向上させ収益につなげる。

また、多言語対応人材の育成講座の有償化を進め、継続性のある収益源を確保するほか、クラウドファンディング等の活用により、協議会事業資金の獲得を目指す。

２．民間事業者コミュニティの形成

民間事業者によるコミュニティを形成し、協議会と連携した共創体制を構築する。協議会は新製品等の開発・販路拡大を支援するほか、成功事例の横展開を図る。あわせてオープンファクトリーや産学官連携による共創プロジェクトの民間事業者参画を促進し、民間事業者が主体となって顧客層の掘り起こしを進める。

３．情報ハブ機能の強化

協議会は、事業者・教育機関・行政をつなぐ情報共有・調整機能を強化し、情報ハブとして役割を強化する。

また、協議会及び民間事業者によるイベント・講座・商品情報について、ポータルサイトや SNS により市内外・海外への情報発信を行う。

さらに、協議会が持つプロデュース機能を活かし、民間事業者による新事業の企画・広報等のサポートを行う。

４．人材育成システム構築に向けた調査研究

本計画を持続可能なものとするためには、地域での担い手の確保と育成が不可欠である。協議会は、学校教育や産学・産産連携を通じた、段階的な人材育成システムを構築・運用について調査研究を進める。まずはすでに市内団体が実施している事業について情報収集し、整理する。そのうえで一貫した人材育成システム構築のための現状整理、課題抽出を行うとともに、教育機関等を巻き込み、人材育成システムの構築に向けた関係づくりを進める。

これらの取組を一体的に進めることで、協議会は商品売上や講座受講料等を通じて収益を獲得し、自立・自走への道筋をつける。

さらに協議会が地域ブランドの構築や信頼性・競争力の向上を図り、民間事業者の経営力向上をサポートすることによって、協議会及び民間事業者を含む地域全体の自立・自走へつなげる。

（６）構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

構成文化財の保存において、全国的に文化財所有者による維持管理の負担が増大しているなか、その対策の一つとして構成文化財所有者等が安定的に資金を確保できる体制が不可欠である。このため、文化財を適切に活用し、来訪者や消費者を呼び込むことで収益を創出し、その収益を修復・保全に還元する好循環を形成することが重要である。

本計画では、体験プログラム等により構成文化財への来訪・周遊を促進するとともに、消費活動につながる仕組みを検討し、創出された収益が構成文化財の保存と活用に還元される循環モデルの構築に取り組む。また、行政による修繕補助を継続し、公的支援と民間活力の双方で文化財保全を推進する。

１．来訪促進と体験価値の創出

文化財の価値を広く伝えるため、多言語対応が可能な有償ガイドや体験・見学プログラムを充実させ、市内外・海外の来訪者へのプロモーションを強化する。各拠点で活動するボランティアガイドと連携し、「桑都物語」全体や構成文化財と「桑都物語」、構成文化財間の関連については多言語対応ガイドが担い、各構成文化財の詳細解説はボランティアガイドが担うなど、役割分担により「幅広く、深い」理解につなげる体制を整える。あわせて、有償プログラムの拡充など、多様な体験価値の創出を図り、持続的な来訪者層の形成と収益機会の最大化につなげる。

２．ブランド化と高付加価値化による収益確保

ブランド戦略は単なる商品販売にとどまらず、文化財の魅力や地域全体のプレゼンス向上につながるものである。伝統的な織物・染物は「高品質」を訴求ポイントとし、独自の基準による認定商品制度を通じて、ブランド力を強化する。桑については、桑栽培、養蚕

といった各工程に着目し、効能や成分等の「強み」を活かした異分野展開を進め、商品開発・展開促進及びブランド化を図る。

こうしたブランド化による商品をふるさと納税の返礼品として活用し、寄附額の増加を通じて文化財保全の財源確保につなげる。

３．資金循環の仕組み化

ふるさと納税を活用し、前項で述べたブランド製品を含めた返礼品の拡充を図ることで寄附額の増加を図り、文化財保存・活用のための安定的な財源確保を図る。文化財所有者及び保持者自身が寄附を募り、その資金を文化財保存・活用に循環できる仕組みづくりについて検討する。

４．行政によるサポート

文化財保全の基盤として、行政による修繕補助制度を継続し、文化財の長期的な保存を支える。また、構成文化財所有者が文化財活用によって得た収益を保全に還元できる仕組みと合わせ、公的支援と民間活力の連動による、地域全体で文化財を守り育てる仕組みを構築する。

５．文化財行政の推進

構成文化財の魅力を引き続き伝えていくため、国史跡八王子城跡ガイダンス施設や絹の道資料館等、構成文化財に関連する施設の維持管理を継続し、文化財の保護・普及活動を推進する。あわせて八王子車人形などの民俗芸能の公演、国史跡八王子城跡御主殿遺構確認調査等の事業を継続し、歴史的価値の継承と活用を進める。

これらの取組により、「文化財活用→来訪者増→資金獲得→文化財保存」という循環を確立し、文化財の価値を未来へ継承するとともに、地域経済と文化の発展を両立させていく。

（７）地域活性化のために行う事業

（７）－１　組織整備

（事業番号１－Ａ）

事業名	地域活性化に向けた組織整備事業
概要	日本遺産「桑都物語」を活用した地域活性化を推進するため、協議会の運営体制を強化し、官民連携による事業推進体制を整える。

	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産「桑都物語」推進協議会の運営	協議会を定期的（年 2 回）に開催し、事業計画の策定、進捗管理、課題解決を行う。総括・広報・普及啓発、文化財・教育・人材育成、観光・物産を担う 3 部会を設置し、役割を明確化することで PDCA サイクルの実効性を高める。	協議会
②	民間事業者コミュニティの形成	ストーリーを活用した商品開発や体験プログラムを企画・実践する民間事業者コミュニティを形成し、定期的に交流の場を設ける。また事業者間の情報共有、ネットワーク形成、共創プロジェクトの創出を促し、民間主導の新たなビジネスを生み出す土壌を整える。	民間事業者
③	協議会と民間事業者コミュニティの連携促進	協議会と民間事業者コミュニティが連携し、イベント連携、販路拡大、共同企画などの官民連携事業を実施する。また、民間事業者による成功事例を他の事業者へ横展開することで、地域全体で事業化を加速させる。	協議会・民間事業者

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2023	※新規追加	―
2024		―
2025		―
2026	民間事業者コミュニティ新規参画者数（年間）	10 者
2027		10 者
2028		10 者

事業費	2026 年度：300 千円　2027 年度：300 千円　2028 年度：300 千円
継続に向けた事業設計	主に収益事業の創出を担う民間事業者コミュニティが連携を通じて事業化を図るためには、民間事業者コミュニティをリードする事業者、またコミュニティを形成する参加者数が重要となることから、3 か年で 30 者を目指し、今後拡大していく。 1 年目：コミュニティ組成 2 年目：共同プロジェクト企画・実証 3 年目：収益化モデルの創出・検証

（７）－２　戦略立案

（事業番号２－Ａ）

事業名	日本遺産推進のための戦略立案事業
概要	日本遺産「桑都物語」を活用した地域活性化を効果的に推進するため、多様なテーマによる「入口戦略」を通じて、「桑都物語」の認知・理解の拡大を図る。また、文化観光拠点整備に向けた戦略を策定し、観光・産業・教育を横断した総合的かつ中長期的な推進方針を構築するとともに、行政の各種個別計画における位置づけを明確化する。

	取組名	取組内容	実施主体
①	「入口戦略」による日本遺産の普及啓発・情報発信	教育、観光、産業、健康、環境、芸術文化など、多様なテーマによる「入口戦略」を通じて、幅広い層を対象に「桑都物語」の認知・理解につなげる。	行政・協議会
②	観光 MICE を絡めた文化観光拠点整備に向けた戦略策定	日本遺産を活用した文化観光拠点整備に向け、観光 MICE 戦略も踏まえ、周遊促進、体験観光の拡充等を含む戦略を検討する。また、検討にあたっては文化財の保存活用に関する計画に加え、中心市街地の活性化及び観光振興に関する計画・方針との整合を図り、日本遺産と各施策を連動させた推進を目指す。	行政
③	文化財保存活用地域計画協議会における計画の中間評価見直し	現行の文化財保存活用地域計画の中間評価を行い、課題や成果を分析したうえで、必要に応じて見直しを行う。文化財保全・活用がより好循環につながるよう、施策の精度向上を図る。	行政・文化財保存活用支援団体

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2023	※新規追加	
2024		
2025		
2026	異分野のテーマを入口とした新規取組件数	2 件
2027		3 件
2028		5 件

事業費	2026 年度：100 千円　2027 年度：100 千円　2028 年度：100 千円
継続に向けた事業設計	プロデュース機能を有する部会が中心となり、入口となる分野の研究を行う。 行政の各部署で所掌している個別計画との整合を図りつつ、担当部署や民間事業者と調整のうえ、具体的な事業実施を進める。

1 号議案参考関連資料

（事業番号２－Ｂ）

事業名	民間事業者による日本遺産の活用促進及び普及啓発事業
概要	日本遺産「桑都物語」の認知度向上と活用促進を図るため、協議会や協議会構成団体が民間事業者の取組を支援できる体制を整備し、民間主体による新たな活用事業の創出及び普及啓発を促進する。

	取組名	取組内容	実施主体
①	民間事業者を通じた普及啓発・情報発信	民間事業者がターゲットを明確にしたうえで、SNS、ウェブサイト、イベントを活用した効果的な発信を行う。協議会は、これら民間事業者の取組をポータルサイト等で統合的に PR し、民間事業者と協議会の双方が連携して普及啓発を推進する。	協議会・民間事業者
②	民間事業者による日本遺産活用事業の創出促進	民間事業者が有するスピード感や企画力を活かし、市場ニーズに応じた新たな商品開発等の事業創出を進める。協議会は構成団体や支援機関と連携し、事業化に向けた支援を行うことで、地域全体のビジネス創出力を高める。	民間事業者・協議会
③	民間事業者・協議会の連携による普及啓発・情報発信	協議会と民間事業者が連携し、日本遺産推進を共通の目的として、収益性と公益性の両面を踏まえた取組を継続して実施する。	協議会・民間事業者

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2023	※新規追加	
2024		
2025		
2026	民間事業者による日本遺産を活用した新規取組件数	5 件
2027		5 件
2028		5 件

事業費	2026 年度：100 千円　2027 年度：100 千円　2028 年度：100 千円
継続に向けた事業設計	協議会と民間事業者コミュニティが連携し、日本遺産「桑都物語」を活用した取組の創出と普及啓発を継続的に推進する。民間事業者が事業創出、協議会は広報支援や連携調整を行うことで、双方の役割を生かした継続的な官民協働の体制を維持する。

（７）－３　人材育成

（事業番号３－Ａ）

事業名	地域の歴史文化・産業を支える「桑都物語」人材の育成事業
概要	日本遺産「桑都物語」を活用し、観光振興と文化継承を担う人材を育成する。特に多言語対応ガイドの育成によってインバウンド対応を強化するとともに、安定した活動環境の確保に向けて、市内中小企業とのマッチングの可能性について調査研究を進める。

	取組名	取組内容	実施主体
①	多言語対応ガイド人材の育成	高尾山を中心としたインバウンド需要に対応するため、多言語で日本遺産ガイドが可能な人材の育成講座を実施する。育成した人材については、民間観光事業者等との連携により有償ガイドとして活躍できる機会を提供する。	協議会・民間事業者
②	多言語対応ガイド人材と中小企業とのマッチング促進	多言語対応ガイド人材が安定して活動できるよう、海外展開や外国語対応スキルを求める市内中小企業とのマッチング可能性について調査研究を行い、その実現性を検証する。	協議会・行政・産業支援機関・民間事業者
③	「桑都物語」サポーターの育成	協議会や構成団体が実施する日本遺産関連事業への参加・広報に積極的に協力する民間サポーターの登録制度を整備し、継続的な支援体制を構築する。	民間事業者・大学・協議会

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2023	※新規追加	―
2024		―
2025		―
2026	多言語対応ガイド人材の認定数（年間）	―
2027		10 人
2028		10 人

事業費	2026 年度：3,000 千円　2027 年度：3,000 千円　2028 年度：3,000 千円
継続に向けた事業設計	1 年目：多言語対応ガイド人材育成の調査研究、実施計画策定 全国通訳案内士、観光事業者との連携強化、海外展開人材を求める中小企業のヒアリング 2 年目：多言語対応ガイド人材育成講座実施、ガイド輩出、中小企業とのマッチング。 3 年目：ガイドネットワーク形成。

1 号議案参考関連資料

事業番号３－Ｂ）

事業名	次世代人材を対象とした理解定着・キャリア形成支援事業
概要	小・中学生に対し、郷土学習等を通じて「桑都物語」の基礎的理解と定着を図る。中高生にはガイドボランティア等の実践機会を提供し、地域文化の理解とキャリア形成を促進する。また、高校生・大学生にはインターンシップ等による実務経験の機会を提供し、将来的な地域人材の育成につなげる。

	取組名	取組内容	実施主体
①	小・中学生向け日本遺産の理解・定着促進	郷土学習や出前授業、様々なコンテンツを活用した学習機会を提供し、小・中学生の理解及び定着を図る。	行政
②	中高生ガイドボランティア育成事業の実施	高尾山を訪れる外国人を対象に、中高生が外国語で「桑都物語」をガイドする機会を提供する。また、多言語対応ガイド人材との交流を通じて、日本遺産に関連する人材としてのキャリア形成を促す機会とする。	協議会
③	キャリア形成に資する高校生、大学生向けの人材育成事業の実施	ゼミ活動、インターンシップ等を通じ、「桑都物語」に関連する商品開発・広報などの実務経験機会を提供し、日本遺産に関連する人材としてのキャリア形成につなげる。	協議会・高校・大学・民間事業者

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2023	「日本遺産に認定されたことを知っている」と回答する若年層（18～29 歳）の割合	
2024		36.0%
2025		38.0%※推計値
2026		40%以上
2027		45%以上
2028		50%以上

事業費	2026 年度：3,000 千円　2027 年度：3,000 千円　2028 年度：3,000 千円
継続に向けた事業設計	小中学校の教育課程に取り入れることで、継続した事業実施を担保する。合わせて担当所管を通じた市内高校や大学連携機関との連携により、協働を継続する。

（７）－４　整備

（事業番号４－Ａ）

事業名	「桑都物語」の魅力発信と保存環境整備事業
概要	日本遺産「桑都物語」の価値を高めるため、「桑都の杜」や歴史・郷土ミュージアムの整備・運営、周遊ルートの拡充を進めるとともに、構成文化財や関連施設の魅力発信環境を充実させる。また、修繕補助制度を通じて文化財の保存を支え、来訪促進と文化財保全・活用を図る。

	取組名	取組内容	実施主体
①	「桑都の杜」（歴史・郷土ミュージアム）の整備・運営	駅からの交通アクセスが良く、歴史に詳しくない来訪者でも気軽に「桑都物語」を学べる拠点として、「桑都の杜」及び歴史・郷土ミュージアムを整備・運営する。八王子市の歴史文化に関する展示や体験を提供し、来場者の理解を深める拠点として機能させる。	行政（指定管理者）
②	日本遺産「桑都物語」周遊ルートの整備・拡充	現在提供している周遊ルートを拡充し、中心市街地のほか、市内の各地域で幅広い年代や趣向に対応した周遊ルートを整備する。また、伝統産業を対象としたオープンファクトリーの仕組みを活用した産業観光のルートも検討し、文化観光に加え産業観光にもつなげる。また、周遊ルートの提供は主にデジタルマップを活用し、構成文化財や関連施設に加えて周辺店舗等の情報も提供し、周遊への誘導を図る。	協議会
③	構成文化財及び関連施設等におけるさらなる魅力発信環境の整備	既存の解説板等の保全を図り、来訪者が各構成文化財の概要について気軽に学べる環境を維持する。また、「桑都物語」アプリへの誘導を促し、解説板に載らないストーリー間のつながりや詳細情報を取得できるようにすることで、理解の深化と周遊を促進する。	文化財所有者・協議会
④	構成文化財・市指定文化財の修繕補助	文化財所有者への修繕補助制度を継続し、構成文化財および市指定文化財の保存の安定性を確保するとともに、活用可能な状態を維持する。	文化財所有者・行政

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2023	※新規追加 日本遺産「桑都物語」周遊ルート数（延べ）	
2024		7 件
2025		7 件
2026		10 件
2027		15 件
2028		20 件

事業費	2026 年度：13,000 千円　2027 年度：13,000 千円 2028 年度：13,000 千円
継続に向けた事業設計	令和 8 年 10 月開館の「桑都の杜」を拠点として、周遊ルートを整備。歴史文化のほか、ヘルスケア等の多様な視点を入れ周遊ルートを拡充していく。

（７）－５　観光事業化

（事業番号５－Ａ）

事業名	「桑都物語」を活用したイノベーション創出事業		
概要	日本遺産「桑都物語」をテーマに、「新たな価値づくり」に基づく商品開発や高付加価値ツアー造成を通じてイノベーション創出及び事業化を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	織物産業ブランド化・高付加価値化推進	公設試験場との連携により、織物製品に関する独自の品質基準の策定し、認定制度を立ち上げることで、地域ブランドによる高付加価値化を図る。認定商品は協議会オンラインショップのほか、人流の多い箇所の立地店舗や宿泊施設等で販売し、土産品・贈答品として展開するとともに、「桑都物語」ブランドとしての信用付与を行う。	協議会・八王子織物工業組合・民間事業者
②	桑都ヘルスケア・食体験コンテンツ開発	民間事業者や大学等との連携により桑の効能に着目した製品開発や飲食プログラムを試行する。また、当該分野に関心のある層を対象に、日本遺産ブランドとしての信用とともに販売を促進し、協議会オンラインショップや市内協力店舗で販売する。	協議会・民間事業者
③	伝統芸能とものづくり・デジタル技術の融合	八王子車人形などの伝統芸能について、ものづくり技術やデジタル技術を活用して、新たな顧客層の開拓を行う。本取組の成果については、桑都の杜や中心市街地等、多くの来訪が見込める場を活用して公開し、多様な関心層の来訪促進につなげる。	協議会・構成文化財所有者
④	日本遺産「桑都物語」収益モデル構築	民間事業者によるコミュニティ活動を通じ、インバウンド対応ツアーなど、体験・見学による有償ツアーを造成する。あわせて、協議会オンラインショップやふるさと納税を活用した新商品の創出を進め、販売促進を図る。	協議会・八王子商工会議所・民間事業者

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2023	日本遺産「桑都物語」推進協議会による「桑都物語」関連商品の売上高	ー
2024		57 万円
2025		125 万円※予測値
2026	※新規追加 「桑都物語」に関連する商品・サービスの売上高	200 万円
2027		300 万円
2028		400 万円
事業費	2026 年度：2,000 千円　2027 年度：2,000 千円　2028 年度：2,000 千円	
継続に向けた事業設計	1 年目：品質基準の策定、認定制度の立ち上げ、既存商品の磨き上げと販売強化 2 年目：新商品の開発・試行、体験プログラム等を含む事業モデルの実証と販路拡大 3 年目：認定商品のラインナップ拡充、収益モデルの確立・安定化	

（７）－６　普及啓発

（事業番号６－Ａ）

事業名	「桑都物語」の魅力発信・普及啓発事業
概要	桑都の杜、歴史・郷土ミュージアムをはじめとする拠点施設や教育現場を活用して普及啓発を行う。構成文化財を取り上げた短編動画やストーリー全体の理解につなげる検定の制作等により、「桑都物語」の理解と定着を図る。これらにより幅広い世代が「桑都物語」への理解を深められるよう、普及啓発に取り組む。

	取組名	取組内容	実施主体
①	「桑都の杜」（歴史・郷土ミュージアム）を起点とした日本遺産普及啓発	交通アクセスの良い「桑都の杜」及び歴史・郷土ミュージアムをはじめとする拠点施設において展示や体験プログラムを実施する。また、民間事業者による歴史文化や芸能の普及啓発の取組、伝統産業事業者等との連携によるオープンファクトリーなど、多様な主体が参加する機会を創出することで、「知る」「見る」「体験する」機会を拡充し、「桑都物語」の理解を深めるとともに、担い手等との交流機会を提供する。	協議会・民間事業者
②	多様なテーマを入口とした日本遺産ストーリーの普及啓発	食文化、健康、環境、アニメコンテンツなど、多様なテーマとのコラボレーションを展開し、異なる興味・関心から「桑都物語」へアプローチできる多層的な普及啓発を行う。	協議会・民間事業者
③	構成文化財を対象とした短編動画作成・公開	無形文化財を中心に、構成文化財や担い手の思い・使命感といった「内面的な魅力」も捉えた短編動画を制作する。	協議会

④	日本遺産「桑都物語」検定（仮称）の制作・展開	小・中学生を主な対象に、「桑都物語」や構成文化財のつながりについて理解を深められる検定問題を大学等との共創により制作する。ウェブで気軽に実施できる仕組みを整えることで、子どもだけでなく保護者層への理解促進にもつなげる。	協議会・大学

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2023	※新規追加 市政世論調査「日本遺産認定の認知度」における「認定された内容をよく知っている」の割合	5.7%
2024		5.0%
2025		7.2%
2026		9.4%
2027		11.6%
2028		13.8%

事業費	2025 年度：7,500 千円　2026 年度：7,500 千円　2027 年度：7,500 千円
継続に向けた事業設計	「桑都の杜」、歴史・郷土ミュージアム等の常設施設で継続的に普及啓発を行うほか、制作した動画・検定は教育現場、家庭等において積極的に活用される仕組みを整えることで、継続した利用が見込める。

（７）－７　情報編集・発信

（事業番号７－Ａ）

事業名	「桑都物語」情報発信・編集強化事業
概要	日本遺産「桑都物語」の魅力を効果的に発信するため、デジタル媒体とイベントを活用した情報編集・発信体制を強化する。ポータルサイトや SNS を中心に情報を一元化し、ターゲット別に発信することで認知度向上と交流促進を図る。

	取組名	取組内容	実施主体
①	ポータルサイト・SNS の運用、情報発信	協議会の公式ポータルサイトや SNS を活用し、日本遺産に関する最新情報、イベント、商品情報を定期的に発信する。また訴求力のある投稿を SNS 中心で行うことで、関心層の拡大とファン獲得を図る。	協議会
②	デジタルマップを活用した多様なニーズに合わせた情報の発信	構成文化財や日本遺産関連施設のほか、周遊ルートや店舗に関する情報についてデジタルマップを通じて発信し、市民や来訪者が市内のどこからでも自分が求める情報にアクセスできる環境を整える。	協議会

③	日本遺産イベントを活用した情報発信	地域イベント等「桑都物語」や関連事業を紹介するブースを設置し、各イベントの来場者に直接情報を届ける。また観光事業化で製作した「桑都物語」関連商品の展示・販売を通じて発信を強化する。	構成団体・協議会

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2023	※新規追加 「桑都物語」ポータルサイトプレビュー数	57,000　※推定値
2024		58,000　※推定値
2025		59,000　※推定値
2026		60,000
2027		63,000
2028		66,150

事業費	2026 年度：4,000 千円　2027 年度：4,000 千円　2028 年度：4,000 千円
継続に向けた事業設計	ポータルサイトにおいてイベント情報、マップ情報等、アーカイブも含め、多様な情報のさらなる蓄積を図るとともに、イベント等に合わせて SNS 発信を行うなど、継続的な情報発信を推進する。